

最近生まれた子どものために育児休業を取得した男性は 37% ——職場の雰囲気づくりが取得向上の鍵

東京都調査

東京都が2021年11月にまとめた「男性の家事・育児参画状況実態調査」の報告書によると、一番最近生まれた子どものために1日以上育児休業を取得した男性の割合は37.6%と2年前の調査結果から約6ポイント増加し、わずかながらも男性の育休取得が進んでいる状況が確認できた。ただ、育休を希望どおりに取得できなかったという男性が7割以上だったことに加え、その理由として「職場が取得できる雰囲気ではなかったから」が最も多くあがり、取得への職場の協力という点でまだまだ改善の余地がある状況もうかがえた。

調査は、インターネット調査方式で行った。東京都に住む18歳以上70歳未満の男女が対象。登録モニターから、未就学児を持ち、かつ配偶者と同居している男女2,000人（各1,000人）を含む5,000人のサンプルを回収した。調査時期は2021年6月10日～18日。

男性の育児休業の取得状況

取得日数は「1日～5日未満」が4割を占める

配偶者と未就学児がいる男性に、一番最近生まれた子どもについて、どのくらいの期間の育児休業等（以下、育休）を取得したか尋ねたところ、1日以上の育休を取得した人の割合は37.6%で、2019年度に実施した前回調査での同割合から5.8ポイント上昇した。なお、この調査での育休には、法定の育児休業制度に加えて、個人事業主などが育児のために自主的に仕事を休む場合も含む。

育休を取得した男性について、取得日数の内訳をみると、「1日～5日未満」が43.6%で最も割合が高く、「5日～2週間未満」が21.3%、「2週間～1カ月未満」が10.6%、「1カ月～3カ月未満」が11.2%、「1年」が2.1%などとなっている（図1）。

「職場に代替要員がいなかったから」も35%あがる

育休を希望どおりに取得できたかどうかについては、「希望どおりに取得できた」とする男性は22.2%と約2割で、「希望どおりに取得できなかった」が72.4%と7割以上を占めた（図2）。ただ、「希望どおりに取得できた」の割合は、前回調査から6.0ポイント増えた。

希望どおりに取得しなかった男性にその理由を聞くと（複数回答）、「職場が取得できる雰囲気ではなかったから」が36.3%で最も高い割合となっ

ており、次いで「職場に代替要員がいなかったから」（35.2%）、「育休取得中の収入減が家計に影響するから」（24.2%）などの順だった（図3）。

一方、希望どおりに（または希望以上）に取得できた男性にその理由を聞くと（複数回答）、「職場が取得しやすい雰囲気だったから」が53.2%で最も割合が高く、「収入減による影響がなかったから（または少なかったから）」（20.7%）が続いた。

図1 男性の育休取得日数（n=376）

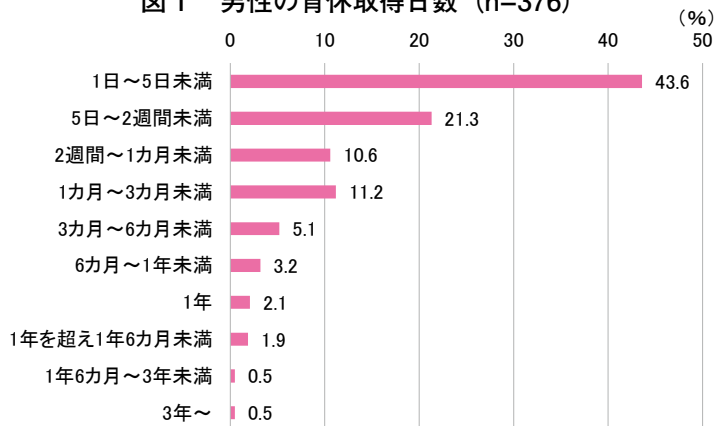
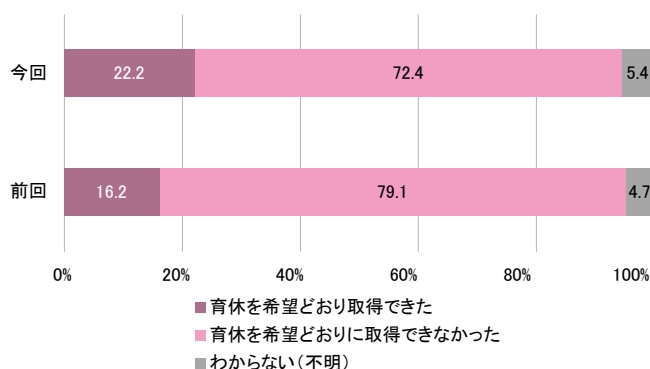


図2 男性の育休取得状況（n=1,000）



約半数が育休取得によって育児の大変さを実感

育休を1日以上取得した男性に、育休の期間を終えたときの考えを聞くと(複数回答)、約半数が「育児の大変さを身をもって知った」(53.6%)と回答して最も割合が高く、これに「妻の負担を減らすことができたと思う」(44.9%)、「子どもの成長を感じる事ができた」(40.4%)などが続いた。

前回調査の結果と比べると、「育児の大変さを身をもって知った」の割合は2.0ポイント、「妻の負担を減らすことができたと思う」は2.7ポイントそれぞれ上昇した。

男性と女性の家事・育児時間

女性の家事・買い物時間は男性より2倍以上多い

回答者全体での家事・買い物時間の、週全体における1日あたりの平均時間について、「配偶者あり・未就学児あり」の男女別にみると、男性は1時間10分だったのに対し、女性は2時間38分と、女性の家事・買い物時間は男性に比べ2倍以上多い状況が浮き彫りとなった。

育児時間の週全体での1日平均時間についてもみると、男性の2時間15分に対し、女性は6時間10分で、女性のほうが2.5倍以上多いのが実態となっている。

子育て世代の家事・育児時間の男女差は1日5時間

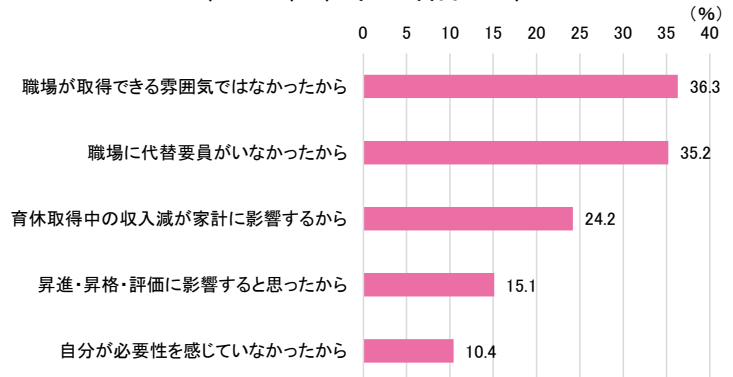
未就学児を持つ男女(子育て世代)の家事・育児関連時間を、週全体における1日あたりの平均時間でみると、男性は3時間34分であるのに対し、女性は8時間54分で、男女差は5時間以上と大きな差がついた。前回調査と比べると、男性の時間は1分しか増加しなかったが、女性は20分増加し、男女差は拡大した。

男性は女性の育児時間を正しく把握していない可能性

配偶者と未就学児がいる人に、自身と配偶者の育児にかかる時間をそれぞれ聞くと、男性が回答した本人の育児時間(週全体での1日平均)は2時間15分で、女性が回答した配偶者(夫)の時間(2時間21分)と大差なかった。

一方、女性が回答した本人の時間(6時間10分)

図3 育休を希望どおりには取得しなかった理由(複数回答)(n=724)(上位5項目のみ)



と男性が回答した配偶者(妻)の時間(4時間33分)の差は、女性の回答時間のほうが1時間37分多く、男性は女性の育児時間を正しく把握できていない可能性がうかがえた。

女性ではテレワーク実施者のほうが育児時間が短い

配偶者がいて仕事をしている人(育児時間は未就学児がいる人)の家事・買い物時間(週全体での1日平均)と育児時間(同)を、テレワークの実施の有無別にみると、男性では、家事・買い物時間についても、また育児時間についても、あまり差がない結果となった。家事・買い物時間ではテレワーク実施者が未実施者よりも2分少なく、育児時間では未実施者よりも8分少ない。

一方、女性では、家事・買い物時間、育児時間ともに、テレワークを実施した人よりも実施していない人のほうが時間が長くなっており、家事・買い物時間では未実施者のほうが25分、育児時間では43分長かった。

夫のみテレワークの場合の女性の家事時間が最長

共働き世帯の家事・買い物時間(週全体での1日平均)を夫婦のテレワーク実施の有無別にみると、男性では実施の有無による大きな差はみられなかった。女性では、「配偶者(夫)のみテレワークを実施した」と回答した人での家事・買い物時間が2時間33分となり、最も時間が長かった。

育児時間についても同様にみると、男性では、夫婦のテレワーク実施の有無による時間の大きな差はみられなかった。女性では、「夫婦ともにテレワークは実施していない」と回答した人での時間数(5時間53分)が最も長かった。

家事を妻がほぼ全て担う割合は微減

配偶者がいる人に家事分担について聞くと、「妻がほぼ全て担っている」が32.1%、「どちらかといえば妻が多く担っているが、夫も一部担っている」が49.0%と、妻のほうがかかっているとの回答割合が全体の8割を超えた。

前回調査と比べると、「妻がほぼ全て担っている」は4.6ポイント低下し、「どちらかといえば妻が多く担っているが、夫も一部担っている」は2.3ポイント上昇した。

年齢別にみると、男女ともに「妻がほぼ全て担っている」の割合は年代が上がるほど高くなり、「夫と妻で平等に分担している」との割合は、男性の40歳以上の年代になると1割台にとどまるが、「20歳～29歳」では35.1%と他の年代に比べて目立って高くなる。

妻が担うのは「夫の仕事が忙しいから」

こうした家事分担の状況となっている理由を聞くと（複数回答）、「妻がほぼ全て担っている」、「どちらかといえば妻が多く担っているが、夫も一部担っている」の理由としてはともに、「夫の仕事が忙しいから」の割合が最も高くなっている（それぞれ51.0%、59.6%）。

4割は夫に家事を行う余裕があると感じている

配偶者がいる人に、家事負担についての考え方を聞くと、「適当だと思う」は41.5%で、「もっと夫が担うべき」が30.9%などとなっている。女性だけでみると、「もっと夫が担うべき」の回答割合は38.0%となり、「適当だと思う」は36.7%と3割台となる。

「もっと夫が担うべき」と回答した人にその理由を尋ねると（複数回答）、「夫に家事を行う余裕があると思うから」が41.1%で最も割合が高く、男女別にみても、「夫に家事を行う余裕があると思うから」の割合が最も高い（男性が37.2%、女性が43.7%）。

8割は妻が夫よりも育児を分担しているのが現状

配偶者と未就学児がいる人に育児分担について聞くと、「妻がほぼ全て担っている」（24.9%）、もしくは「どちらかといえば妻が多く担っている」（55.6%）との回答割合が8割を超えた。

前回調査と比較すると、「妻がほぼ全て担っている」は0.8ポイント低下、「どちらかといえば妻が多く担っている」は4.1ポイント低下となっており、「夫と妻で平等に分担している」が前回の11.9%から今回は15.8%に上昇した。

育児分担の状況別にその理由を聞くと（複数回答）、「妻がほぼ全て担っている」と回答した人があげた理由では、「夫の仕事が忙しいから」が67.6%で最も高くなっている。

女性の4割は育児を「もっと夫が担うべき」との意見

家庭の育児分担割合についての考え方を聞くと、女性の共働き世帯の人の回答では、「もっと夫が担うべき」との割合は44.4%で、男性の共働き世帯の人の回答割合（26.6%）と大きく差が開いた。

男性の家事・育児参画への賛否

6割以上が男性の家事・育児参画に賛成

男性が家事・育児に積極的に参画することについて聞くと、「賛成」が64.7%、「どちらかといえば賛成」が20.3%で、賛成派が8割を超えている。前回調査と比べると、「賛成」は4.3ポイント増加した。

男性の家事・育児参画のイメージを聞いたところ（複数回答）、「男性が家事・育児を行うことは、当然だ」が63.7%で最も割合が高く、次いで「子どもにいい影響を与える」（48.1%）、「夫婦間の関係に良い影響を及ぼす」（47.2%）などの順で高い。

4割が男性の家事・育児参画を以前より肯定的に捉える

男性が家事・育児に積極的に参画することについて、以前と比べて考え方が変わったかを聞いたところ、「以前よりも肯定的に捉えている」が44.1%で、「昔から考えは変わらない」（41.6%）の回答割合を上回った。

男性の育休取得別に、男性が家事・育児に積極的に参画することについての回答結果をみると、「以前よりも肯定的に捉えている」の回答割合は、育休取得の経験がない男性では46.5%だったが、経験がある男性では58.2%と10ポイント以上高い結果となった。

（調査部）